

令和7年2月3日

## 報道関係者各位

〒910-0804 福井市高木中央 2-510  
(株)吉光工業 代表取締役 吉田知志

### 関西ものづくり新撰 2025 における弊社技術選定について

#### 1. 会社概要

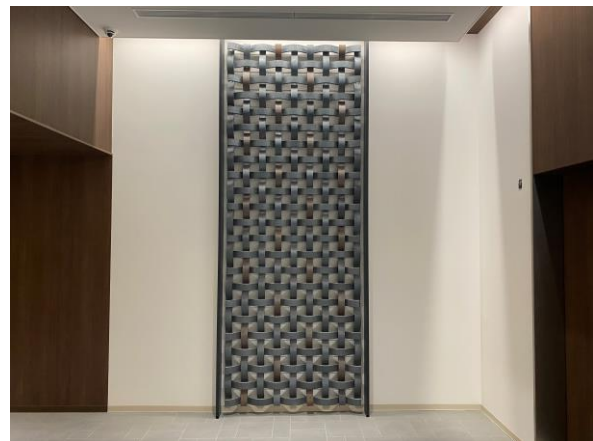
弊社は福井市にて屋根工事業及び建築板金業として、屋根、雨樋、外壁、ほか太陽光発電システムの責任施工を展開する従業員10名の株式会社です。お客様のご要望によっては屋根外壁等の塗装・防水や、雨漏り修理・雪害復旧等に関わる内外装工事、暑い寒いと言った温熱環境への改善など、本業以外であっても社員と共に勉強（人材育成と技術導入）しながら異業種周辺分野の請負や提案を行っています。

現代表の先々代の吉田貢（よしだみつぐ）が1955年（昭和30年）にセメント瓦の製造と販売で創業し、陶器瓦の併売後、屋根や外壁に長尺金属板が使用され始めたころから建築板金の施工部門へ展開してきました。その後、自社の経緯から、屋根工事・板金工業界で瓦と金属部材の両方を扱える工事会社として自社の優位性を確保できています。

#### 2. 「関西ものづくり新撰 2025」に選定

弊社は公益財団法人ふくい産業支援センターの支援を受け、令和6年8月から募集の始まった「関西ものづくり新撰 2025」に自主提案課題（申請者自らが解決すべきと考える課題の解決にアプローチした製品・技術等）として製品・技術等名『瓦で織る壁 Woven Ceramic (ウーブンセラミック)』で申請し、令和7年1月選定通知を受けました。

これにより、令和7年2月26日（水）に大阪市中央公会堂で行われる選定証交付式に参加する予定です。



FUKUMACHI BLOCK 三階エレベーターホール  
での室内施工事例、2023年11月施工

#### 3. 「関西ものづくり新撰 2025」とは

「関西ものづくり新撰」は、販路開拓に意欲のある関西のものづくり中小企業が独自に

開発した製品・技術等のビジネス拡大を応援する取組で、製品、技術やビジネスモデルの取り組みを募集し、特に「優れた」「売れる」製品・技術、「新しい」「儲かる」ビジネスモデルを「関西ものづくり新撰」として選定されます。これに選定されると、国系の機関主導による情報発信や販路開拓支援等のビジネス拡大の機会提供を受けられます。技術名称、概要分野、概要、売り（キャッチコピー）など、最近では社会課題に挑むものづくりが評価され、これまでの233件に今回の28件を加えて261件がものづくり新撰に選定されています。

#### 4. 選定技術「瓦で織る壁 Woven Ceramic」

弊社は1990年代のバブル経済崩壊時に収益改善のため工事施工部門のみに事業統一しました。2018年（平成30年）に現代表が就任後、自社独自の製品保有を強く希望し、ちょうど2017年に小笠原弘建築計画より新規コンセプトの提案を受けたことから、試作に挑んだ結果、見栄え良く越前焼や瓦業界から発注元からも高い評価を受けましたが量産性に課題がありました。そこで、ふくいオープンイノベーション推進機構（福井県工業技術センター／〔公財〕ふくい産業支援センター）に相談し、平成30年度「将来のふくいを牽引する技術開発支援事業」に採択され、高度化に取り組んで量産製品として開発に成功しています。詳細は『瓦で織る壁 Woven Ceramic（ウーブンセラミック）製品開発について』をご参照ください。また、同製品は(株)越前セラミカの多大な協力も頂いています。

#### 5. 受賞裏話（実は二度目の申請）

弊社では、関西ものづくり新撰2021にも同一技術で申請したことがあります。この時は製品が完成したばかりであること、受注生産だったために売上高が少なく、選定に至りませんでした。ふくい産業支援センターからは、関西ものづくり新撰は、社会に受け入れられていることを訴求するには売上が重要である事、落選した場合でも再チャレンジができること、新商品サービス開発から5年間は申請の機会があることを伝えられました。即ち、今回が最後の申請チャンスである事と、弊社では前回の申請から地道にコツコツと売り上げ実績を積み上げてきていること、ふくい産業支援センターから申請について強い推奨を受けたことから今回の申請に至っております。

吉光工業の社名裏話。創業の吉田貢（よしだみつぐ）の幼名は吉田光志、略すと吉光。これが弊社の社名の由来です。

#### 6. 今後

弊社は令和7年2月26日（水）の選定証交付式に参加予定で、式の状況等については、弊社のホームページ等で結果を周知していきます。また、小笠原弘建築計画および(株)越前セラミカと共に、「瓦で織る壁 Woven Ceramic」をご希望するお客様に対し、付加価値の高い製品を提供していきます。

## 『瓦で織る壁 Woven Ceramic (ウーブンセラミック)』製品開発について

(株)吉光工業 代表取締役 吉田知志

### 1. 開発の背景、瓦業界の現状

現在、瓦離れが続いています。地域の風景を作ってきたのは屋根瓦でしたが、今、瓦屋の仕事や話題は減り、焼物業界では窯の稼働率が落ち込み、建築業界でも新規施工や修理も減り、瓦離れが加速しています。このままでは福井の瓦風景が失われます。

福井の瓦は1400年を超える耐久性、災害に対応した技術の進化を伴っています、これを維持し、瓦産業を持続的なものにすべく、新しい瓦文化の創造として弊社が旗振り役を担い、デザイナー、瓦組合、瓦メーカー、施工業者でチームを組みました。福井県の補助金を活用し、福井県工業技術センターの協力の元、時代に求められる、新しい瓦商品を開発しています。

### 2. 試作設計と外部評価

デザインは福井県の繊維産業から着想、瓦の曲線を活かした立体格子で、格子状に編まれた瓦は、銀鼠の落ち着いた色合いで、街並みに馴染み、製品を裏側から見てもまた落ち着いた雰囲気醸しだしています。屋根ではなくエクステリアで実装することができ、試作段階において工事関係者からの高い評価や、道行く人からの関心と質問を受けています。

「この商品が広まれば、再び瓦の話ができるのではないか？」と考え、福井の瓦産業と文化の活性化を図るべく、新たな取組に繋がっています。



図1 製品化後の初の施工事例 (2020年2月、越前市)

### 3. 新市場開拓に期待を込めた製品名

越前瓦は県内流通がほぼ 100%で新市場開拓が必須でした。越前焼を日本の伝統産業と捉え、この商品を県外または海外へと展開する期待を込め、製品名を「Woven Ceramic」即ち「織られた瓦」という意味合いを持たせています。

### 4. 施工事例と導入効果および機能性

福井県内の歯科医院にて玄関の前に設置した実装事例を図 1 に示します。飲食店や事業所に導入されお客様からは、以下のような声を頂け、Woven Ceramic の導入効果が確認できています。

- ・ 外からの視野を遮るので夏に玄関を開け放しにでき、エアコンを使わずに済んだ
- ・ 近所の方から素敵ですねと声をかけられ、会話が弾んだ
- ・ 飲食店では営業している雰囲気は伝えながらも、食事中は落ち着きを感じる
- ・ 店舗の特徴の一つとなり、高感度向上と共にお店の目印化ができた
- ・ 店舗デザインへの組み込み事例では、整ったデザインからは高級感が漂う
- ・ 間接照明を仕込むことで、昼間とは違う表情を外部に演出できる

以上のことから、Woven Ceramic は下記の機能性を有しています。

- ・ 60 年以上の耐久性、不燃性、部分交換可能（瓦の良さ・魅力）
- ・ 調光（日射を減少）および調風（通風し）機能
- ・ 工芸品を幾何学的に配列したルーバー（鎧張り）による視線の遮断機能

### 5. 今後の展開

今回の関西ものづくり新撰の選定を頂き、今後も産業活性化に向けて努力を継続していきます。具体的には、瓦の持つ文化や歴史、日本らしさに価値を感じる方へ、高価格帯商品かつ金属フェンスに替わるものとして外装市場に提供していきます。また、設計士・デザイナーによる設計折り込みや、国内の販売・施工代理店による拡販、海外メーカーとのライセンス契約を実施していきます。さらに、展示会への出展等で、設計士、デザイナーとの接触を図り、顧客候補には施工 CG 作成サービス（施工前シミュレーション）提供や素材データ提供を行い、受注を目指す。瓦メーカーとのライセンス契約を目指し、国内での協力企業、業界関係者全体で産業活性化を目指した情報発信を継続します。

### 6. 最後に

弊社では、「越前の瓦が市場の話題になって、瓦の会話や再考が増えることで関係者の仕事が増えれば良いな」との思いから、福井の瓦産業の持続および再活性化に向けたチャレンジと、瓦文化の次の世代へ引継ぎを目指します。また、日本の瓦産業と文化に貢献し、その上で世界に向けた日本 PR ができればと思っています。

付録：施工 CG 作成サービス提供の事例

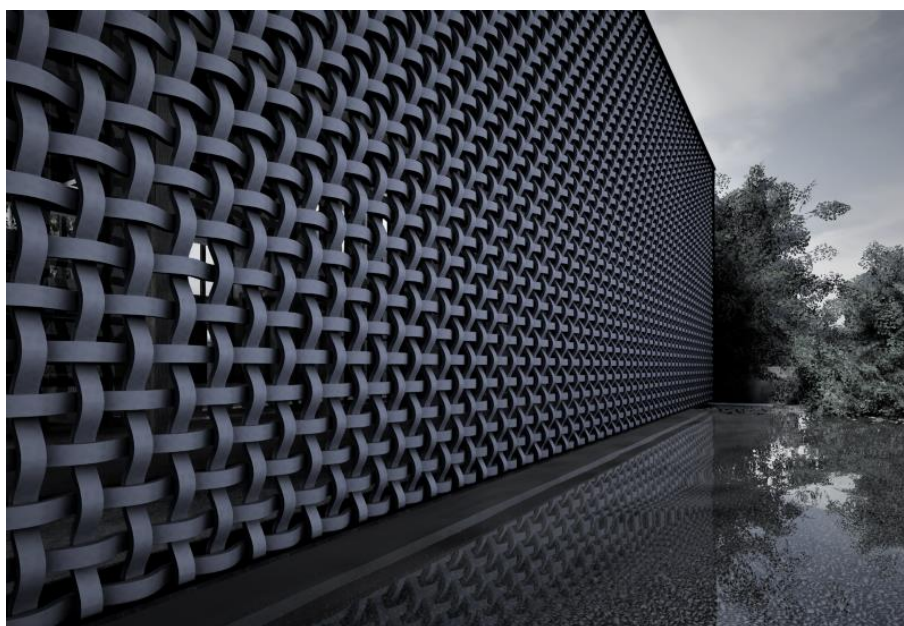


図2. CGによる瓦で織る壁 Woven Ceramic 提案



図3. CGによる瓦で織る壁 Woven Ceramic 施工シミュレーション

以上